

I S K 経営塾 6 5 期 講義キーワード

第 6 回

2005年 3 月 2 日 (水)

- 未来は全て仮設である。どんな時も仮設・検証を繰り返すクセをつける。
- 日々あるべき姿とのコミュニケーションを行い、鮮明なイメージを描くことが勝てる道である。
- 未来のイメージが描けるからこそ、今やるべきことも見えてくる、生き活きとした今を過ごすことができる。
- 何をするにしても、目的を視点・観点・側点を変えて3つ明確にイメージする。
- 悩んでいても何も進展はしない。悩むよりも、「できる・できる」と絶対積極で行動をしよう。
- 負けている人は負けグセが、勝っている人は勝ちグセがついている。勝ちグセをつけるために実践課題5項目、絶対積極を習慣化する。

- パワーが出ていないのは毎日命がけで戦っていないから。戦えていないのは、夢がないから。夢をもって、迫力のある仕事をしよう。
- スキルで負けても、情熱だけは誰にも負けるな。情熱があれば、自然に協力者も現れる。
- 100%リーダー次第である。矢印を外に向けるのではなく、自分に向け、まずは自分が変わる。
- “変える”のではなく、部下の優位特性に気付き、それを伸ばしてあげる。強い物を強くしていくと、自然と弱味も消えて行くものである。
- 情・恐怖・利益で人は動く。これらを上手く組み合わせることで、モチベーションを管理していく。
- 会社のあるべき姿、目標、役割・使命、納期などを明確にすることで、部下の自主性を引き出していく。

- 困難や、苦勞したことは全部チャンスである。絶対積極で意識・行動を変えない限り、ピンチはピンチのままである。
- 感謝の気持ちを忘れない。困難もチャンスを教えてくれるありがたいものである。
- 世の中に偶然はなく、全て必然である。縁もピンチも大切に活かしていく。
- 自分自身の優位特性には気付きにくいものである。だから、自分で決めてしまう。決めて日々行動すれば、自然と身についてくる。
- 21世紀に求められるのは、自主性・創造性・柔軟性である。